

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名: 接合科学研究所

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【研究】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 「学際・国際的高度人材育成ライフイノベーションマテリアル創製共同研究プロジェクト」を開始し、共同利用・共同研究拠点を含む全国的な拠点間連携による学際融合・異分野融合研究を推進したことが評価できる。
【社会貢献】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 新たに「高度ジョイント生産システム構築」協働研究部門を設置し、従来の2つの協働研究部門との連携を通じて産学連携を推進したこと、また新たに「溶接構造の疲労性能設計手法国際拠点」を設立したことが評価できる。
【グローバル化】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 (一社)日本溶接協会と協力して作成し、年間約 2 万件のアクセスがあるデジタルコミック「浪速博士の溶接がってん!R」の英語版を発刊し、研究成果を分かりやすくグローバルに展開したことが評価できる。
【業務運営】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 「接合プロセス」、「接合機構」、「接合評価」の 3 研究部門と、「スマートプロセス研究センター」が“個の力”を発揮しつつ、相互が有機的に連携することにより、溶接・接合技術のイノベーション創出を通して、人類社会に貢献することを目的に、平成 28 年 4 月に改組を実施したことが評価できる。